

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 101-8301

住 所 東京都千代田区神田駿河台1-1

氏 名 学校法人 明治大学

理事長 柳谷 孝

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	学校法人 明治大学			
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1			
該当する事業者 の要件	☒ 規則第4条第1号該当事業者			
	☐ 規則第4条第2号該当事業者			
	☐ 規則第4条第3号該当事業者			
	☐ 規則第4条第4号該当事業者			
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）			
主たる事業 の種類	大分類	○	教育，学習支援業	
	中分類	81	学校教育	
主たる事業 の内容	教育・研究（大学）			
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		5,514 k l	
	☐ 自動車の台数		台	
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂	
連絡先	担当部署	担当部署名	総務部生田キャンパス課	
		所在地	神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1	
	電話番号		044-934-7262	
	FAX番号		044-934-7263	
	メールアドレス			
※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成25年度 ～ 平成27年度 (報告年度平成27年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	当大学の環境への取組みについては、ホームページにて公表しています。 http://www.meiji.ac.jp/koho/academeprofile/activity/environmental/index.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等）

（1）温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標排出量
排 出 量	(実) 9,911 (調) 9,891 t-CO ₂	(実) 10,300 (調) 10,279 t-CO ₂	(実) 10,199 (調) 10,178 t-CO ₂	(実) 10,198 (調) 10,176 t-CO ₂	(実) 10,090 t-CO ₂
削 減 率		(実) -3.9 (調) -3.9 %	(実) -2.9 (調) -2.9 %	(実) -2.9 (調) -2.9 %	(実) -1.8 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原 単 位 の 活 動 量	延床面積		単位	t-CO2/m2	
	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度の値
排 出 量 原単位等の値	0.08440	0.08951	0.08474	0.08473	0.08356
削 減 率		-6.0 %	-0.4 %	-0.4 %	1.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第 1 年度	平成25年度は、以下の理由により温室効果ガスの排出量が増加した。 ・新校舎第1校舎6号棟建設に伴う工事用電力の使用 ・中央校舎にサーバー室を新設したことによる電力使用量増加 ・植物工場の実験増加による電力使用量増加 ・地域産学連携研究センターの実験増加による電力使用量増加 ・気象条件による空調負荷増加
第 2 年度	平成26年度は、新校舎（第1校舎6号棟）が本格稼働を開始したことによりエネルギー使用量（≒温室効果ガス排出量）が増加傾向にあったが、下記の理由により前年度実績を下回る事が出来た。 ・サーバー室空調台数制御工事 ・中央校舎空調更新工事（Ⅰ期） ・第二校舎2号館照明器具LED化
第 3 年度	平成27年度は、次に挙げる理由により温室効果ガスの排出量が増加した。①図書館の開館時間を1時間延長した事による電力使用量増加 ②平成26年夏より使用開始した新校舎第1校舎6号棟が年間を通して稼働した事による電力使用量増加 ③閏年であった事によるエネルギー使用量増加 今計画期間では、基準年度となる平成24年度が震災翌年の節電努力によりエネルギー使用量が特異に少ない年度であったこともあり、期初に設定した目標値までの削減には至らなかった。しかし、施設の稼働率も年々上昇傾向にある状況において、機器の高効率化更新や運用改善により、排出原単位は基準年度とほぼ同水準を維持することが出来ている。

（2）温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	○照明設備の運用管理 ○空調設備の運用管理 ○事務用機器の運用管理 ○空調設備の高効率化 ○照明設備の高効率化
	第1年度	○空調設備の高効率化 第1校舎6号棟の新設に伴う高効率化 ○照明設備の高効率化 図書館 (FLR→LED: 257本)、図書館書庫 (FLR→LED: 69本)、第2校舎6号棟 (FLR→LED: 777本)、格技棟 (FLR72本→LED64本)
	第2年度	○空調設備の運用管理 サーバー室空調台数制御工事 ○空調設備の高効率化 中央校舎空調更新に伴う高効率化 ○照明設備の高効率化 第二校舎2号館 (FLR→LED化: 192本)
	第3年度	○空調設備の運用管理 図書館保存書庫 室内温湿度基準の緩和 (20℃50%RH→22℃) ○照明設備の高効率化 体育施設 (メタルハライド→LED化: 32台中16台実施) 今計画期間においては、期初に予定した更新計画に加え、有効な運用改善施策の実施、機器高効率化更新の範囲拡大に取り組んだが、目標達成までには至らなかった。
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

（２）再生可能エネルギー源等の利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

老朽化した熱源設備の更新には、ヒートポンプ技術（大気熱利用）を利用した高効率機器の導入を優先的に検討する。

イ 計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
太陽光発電システム	第二校舎A館 3.8kW、植物工場 5.0kW	平成16,22年度	導入済み
ヒートポンプ 給湯器	中央校舎 加熱能力18kW	平成21年度	導入済み
空冷ヒートポンプ モジュール	中央校舎 冷房能力680kW、加熱能力720kW	平成22年度	導入済み
空冷ヒートポンプ 氷蓄熱空調機	全9施設 総電気容量約800kW	平成11～23年度	導入済み
空冷ヒートポンプ モジュール	第二校舎D館 冷房能力595kW、510kW 暖房能力630kW、540kW	平成23年度	導入済み
空冷ヒートポンプ パッケージエアコン	第一校舎6号館 冷房能力1,130kW 暖房能力1,267kW	平成26年度	導入済み

ウ 計画期間の再生可能エネルギー源等の価値の保有実績

[illegible]

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	特に無し
第1年度	特に無し
第2年度	特に無し
第3年度	特に無し

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	○紙使用量の抑制化を図る（裏紙の利用、文書の電子化） ○事務用品のグリーン購入を推進する ○廃棄物発生量の縮減化を図る（分別化、リサイクル） ○節水に取り組む（井水利用、擬音装置、実験冷却水循環化など） ○行政官庁の推進する共同取組みへ参加する（CC川崎エコ会議、ライトダウンキャンペーン等） ○屋上緑化を推進する（クレパの試験栽培）
第1年度	○紙使用量の抑制化を図る（裏紙の利用、文書の電子化） ○事務用品のグリーン購入を推進する ○廃棄物発生量の縮減化を図る（分別化、リサイクル） ○節水に取り組む（井水利用、擬音装置、実験冷却水循環化など） ○行政官庁の推進する共同取組みへ参加する（CC川崎エコ会議、ライトダウンキャンペーン等）
第2年度	○紙使用量の抑制化を図る（裏紙の利用、文書の電子化） ○事務用品のグリーン購入を推進する ○廃棄物発生量の縮減化を図る（分別化、リサイクル） ○節水に取り組む（井水利用、擬音装置、実験冷却水循環化など） ○行政官庁の推進する共同取組みへ参加する（CC川崎エコ会議、ライトダウンキャンペーン等）
第3年度	○紙使用量の抑制化を図る（裏紙の利用、文書の電子化） ○事務用品のグリーン購入を推進する ○廃棄物発生量の縮減化を図る（分別化、リサイクル） ○節水に取り組む（井水利用、擬音装置、実験冷却水循環化など） ○行政官庁の推進する共同取組みへ参加する（CC川崎エコ会議、ライトダウンキャンペーン等） ○省エネ展の開催による学生、一般職員への省エネ意識の啓発活動（年1回）

様式第 2 号

(第6面)

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	11,067	t-CO ₂
(調)	10,876	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第 1 号、第 2 号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
明治大学 生田キャンパス	川崎市多摩区東三田1-1-1	8161	学校教育	11,067 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位（第 4 号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--